

慢性的な頭痛、アレルギーに 口内電流が関与!? 歯の詰め物のチェックを

歯の治療には、これまでアマalgam、金、銀など様々な金属が使われてきた。最近、その金属が、口の中に弱い電流を起し、アレルギーや頭痛などを悪化させているという指摘がある。

口の中に2種類の金属があると、その間にガルバーニ電流という電気が流れる(左下図)。最近、ドイツや日本などの医師がこの電流の害について警告し始めた。害のひとつは金属アレルギーの発症。近年、歯の詰め物の金属に含まれる水銀がアトピー性皮膚炎の症状悪化にかかわっていることが指摘されているが、口内に電流が流れると水銀はイオン化して溶け出しやすくなる。

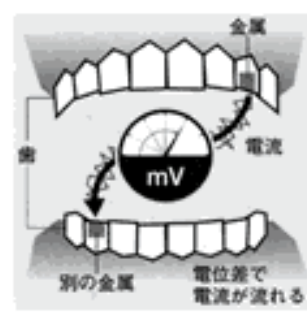
二つ目は電流そのものによる害だ。「体内の神経伝達は電気信号で行われている。それより大きな電流が口の中に流れることで、神経の機能に異常をきたす可能性がある」というのは高輪クリニックの院長だ。院長は、これまで原因不明の頭痛、リウマチ、ガンなど強い痛みを訴える患者に歯科治療を行い、詰め物の金属を除去すると痛みが緩和するという事例を見てきた。そして、「金属による口内電流が患者を痛みを感じやすい状態にしている可能性がある」と指摘する。

もしかしたら自分の頭痛も口内電流が原因かも? そう思ったらどうしたらいいのか。根本的な対策は、歯に使用している金属をセラミックなど非金属材料のものに置き換えることだ。しかし、歯に金属を詰めただけでも重い体調不良にいたる人は、多くはない。「まずは金属と不調の関係をきちんと調べる必要がある」と院長。高輪クリニックでは、オーラルテクターという装置を用いて歯の金属が出す電気の強さを測定している。装置には放電機能もあるので、電気の害を一時的になくすることもできる。そのときに、「痛みが改善するかを患者さんが自分で確かめ、納得の上で治療法を選ぶ」といって院長。

歯の詰め物をすべて非金属材料に置き換えると、かなりの自己負担が必要だが、電気を弱める程度であれば、水銀が含有されたアマルガムだけを除去するなど健康保険の範囲内で行える治療もある。

さらに院長は、口内電流を弱める生活提案(右下コラムの2、3、4)も行う。これらを実行して不調が改善したら、オーラルテクターによる検査を行う歯科(下表、ほか全国約50施設)などに相談するといふ。

(荒川直樹=科学ライター)



口内電流とは

レモンに銅と亜鉛の板を差し込んで、電流が流れるのを見る理科実験があるが、口の中に2種類の金属があっても同様に微弱な電気が流れる。特に水銀を含むアマルガムを使用していると大きな電気が流れやすい。

イラスト/雅電流

口内電流を除去するには

- 1 金属材料を除去**
できれば口内をメタルフリーに。アマルガムなど一部の材料を変更するだけでも効果があるという。
- 2 だ液をよく出す**
だ液分泌が少ないと電流が大きくなる。ストレスを解消したり、食事のときよくかんでだ液を増やそう。
- 3 口内をきれいに**
口内の汚れも電流のもと。特に朝は電流が大きいので、起床後すぐ口をゆすぐ。舌舌も取りたい。
- 4 はだしですごす**
素足ですごすと体内の電気を放出しやすい。帰宅後にすごす時間は、できれば素足がいい。



測定してみても 90mV以上は要注意

オーラルテクターで口内電流を測定できる。結果が電流で3μA、電圧で90mV以上だと、体の不調の原因になっている可能性がある。検査の自己負担は3000円程度だ。



写真/いづもと けい

口内電流対策のできるクリニック・歯科医院

クリニック名(所在地)	医師名	電話
高輪クリニック(東京都港区)	陰山泰成	☎03-3449-4909
大谷歯科医院(富山県射水郡)	大谷敦志	☎0766-56-3883
まつもと歯科(大阪府吹田市)	松本正洋	☎06-6878-4500
中垣歯科医院(大阪府豊中市)	中垣直毅	☎06-6841-8217
山口歯科医院(佐賀県西松浦郡)	山口論理	☎0955-46-5470

今年、口内電流の除去の臨床効果を調査する医師グループを組織。本格的臨床研究をスタートさせた。



陰山泰成高輪クリニック院長
京都大学医学部非常勤講師